



平成30年5月8日

各 位

会社名 京王電鉄株式会社
代表者名 代表取締役社長 紅村 康
(コード番号 9008 東証第1部)
問合せ先 経営統括本部 経理部
企画担当課長 森 雅弘
(電 話 042-337-3135)

京王グループ中期3カ年経営計画（2018～2020年度）
～成長の実現～ の策定について

当社では「京王グループ中期3カ年経営計画（2018～2020年度）～成長の実現～」を策定いたしましたのでお知らせいたします。

1. 基本方針

当社グループをとりまく事業環境においては、東京都の人口が2025年にピークを迎え、当社線沿線の自治体の一部では2025年を待たずに人口減少に転じると予測されております。既に日本の総人口は減少局面に入っており、労働力不足に対応する働き方改革が求められております。また、AI・IoTをはじめとする技術革新による事業環境の変化も想定されます。

2021年度以降には、京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業の完了や新宿再開発などへの大規模投資が予定されており、当社グループは2020年度までに事業の選択と集中をさらに進め、より強固な収益体質を実現する必要があります。また、企業経営における非財務要素として、ESG（環境・社会・ガバナンス）やSDGs（持続可能な開発目標）への取組みの重要性が高まっております。

これらを踏まえ、当社グループでは、2015年度からの6年間で3年ずつに区切り、2020年度を目標年度としてあるべき姿を描いたうえで、前半3カ年において、戦略投資をはじめとした“成長に向けた土台作り”を進めてまいりました。後半3カ年である2018年度から2020年度までの中期3カ年経営計画においては、これまでにまいた種から成長の芽を育て、収穫するため、戦略投資案件の収益化および事業の選択と集中を推進し、“成長の実現”を完遂させてまいります。

2. 主な取組み

- ① 運輸業においては、鉄道事業について、京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業の推進や、自然災害、テロ行為への対策など安全性の向上に取り組むとともに、座席指定列車「京王ライナー」の運行拡大を検討するほか、東京オリンピック・パラリンピック対応を含めたインバウンド施策を積極的に実施するなど、お客様のニーズに対応したサービスを提供してまいります。
- ② 流通業においては、ショッピングセンター事業について、効果的なリニューアルによる増収施策を実施し、収益力向上に取り組んでまいります。また、百貨店業については、顧客層の拡大に向けた売場改装を実施するなど、競争力の強化をはかってまいります。
- ③ 不動産業においては、賃貸業について、用途変更やリニューアルなどによる商品価値向上をはかるとともに、維持管理コストの効率化を推進し、既存資産の収益力向上に取り組んでまいります。また、販売業の推進により、収益規模の拡大をはかってまいります。さらに、沿線におけるコンパクトシティの開発に着手するなど、時代のニーズにあわせた沿線活性化策も推進してまいります。
- ④ レジャー・サービス業においては、ホテル業について、既存ホテルの収益力強化に取り組むとともに、多様な宿泊ニーズに応えるホテルメニューを拡充してまいります。また、高山やミャンマーなどの有望市場における新たな事業展開を推進いたします。
- ⑤ グループ全体の取組みとして、事業の選択と集中を推進してまいります。

3. 経営目標（2020年度）

営業収益	営業利益	営業利益率	親会社株主に帰属する当期純利益	R O A
4,700億円	480億円	10.0%	300億円	5.0%

4. 参考資料

その他本中期3カ年経営計画の詳細につきましては、本日開示いたしました2017年度決算説明会資料にも記載しておりますのであわせてご覧ください。

以 上

(ご参考)

1. 2018年度～2020年度 連結資本的支出

2018年度 (中期計画)	2019年度 (中期計画)	2020年度 (中期計画)	合計
713億円	712億円	573億円	1,999億円

2. 2018年度～2020年度 鉄道事業投資額

	2018年度 (中期計画)	2019年度 (中期計画)	2020年度 (中期計画)
安全性向上 (うち笹塚連立)	167億円 (62億円)	191億円 (94億円)	197億円 (102億円)
サービス向上 環境対策ほか	70億円	116億円	52億円
合計	237億円	307億円	250億円